本報告書は、「やまぐち」からの情報発信、交流・創造へのプロセスと題して、平成21年度事業活動を体系別にとりまとめたものです。
そこには、多くのアーティストとの関わり、作品紹介を通した人々の交流・対話、様々な反響と新たな感動など、この山口の地から発信できた、ひとつひとつの成果があります。
今後も、この施設でさまざまな人々が出会い、対話し、新たな情報芸術の創造と発信の拠点となることを目指し、事業展開を図ってまいります。
ご覧いただき、ご感想、ご意見などをお寄せいただければと思います。
また、この場をお借りして、アーティスト、ボランティア、体験･参加者、観劇者等事業に関わってくださったすべての方々に、深く感謝申し上げます。

平成22年10月
山口情報芸術センター
館長　足立　明男

目　　次

平成21年度山口情報芸術センター収支決算 …… 2
平成21年度山口情報芸術センター事業概要 …… 3
［1］アート …… 4
［2］パフォーミングアーツ …… 12
［3］教育普及 …… 16
［4］ラボ …… 19
［5］シネマ …… 20
［6］主な貸館事業 …… 24
［7］施設利用状況 …… 25
［8］その他特記事項 …… 25
主な関連新聞記事 …… 26
（参考資料）山口情報芸術センターの活動成果 …… 37

平成21年度　山口情報芸術センター収支決算

山口情報芸術センターの収支決算は、施設維持管理費と自主事業費に大別されます。
自主事業費は、次頁からの事業実施経費で、当財団会計処理規程によるものを各事業体系に合わせ整理、表現したものです。

1　施設維持管理費

（支出の部）

科　目	決算額（円）
施設費	169,302,380

＊主な支出は、
①市立図書館を含めた施設全体に係る電気・ガス・上下水道の光熱水料費（43,902千円）
②施設全体に係る清掃・空調設備等保守業務委託料、スタジオに係る舞台機構等の保守業務委託料などの保守管理経費（76,061千円）です。
＊この財源は、山口市からの施設管理運営委託料、雑収入です。

2　自主事業費

（収入の部）

科　目	決算額（円）	備　　考	構成比
チケット収入等	5,709,500	演劇・ダンス等公演・映画に係る入場料収入	2.7
助成金収入	29,722,828	文化庁、（財）地域創造等による助成金	14.2
雑収入等	1,744,061	ワークショップ参加料、カタログ等販売手数料等、寄付金収入	0.8
委託料収入	172,704,501	山口市からの企画事業実施に係る委託料	82.3
合計	209,880,890		100

＊チケット収入は収入全体の2.7%ですが、演劇等公演のチケット料金の安価設定やアート事業展覧会の入場無料など、鑑賞機会の創出に主眼を置いた取り組みをしています。

（支出の部）

科　目	決算額（円）	備　　考	構成比
人件費	105,986,607	市派遣職員・専門員・副専門員・常勤職員等の人件費	50.5
アート	31,997,439	アート企画展等に係る経費	15.3
パフォーミングアーツ	22,914,663	ダンス・パフォーマンス公演等に係る経費	10.9
教育普及	3,800,319	ワークショップ、レクチャー等に係る経費	1.8
ラボ	684,983	研究開発事業、研修生受け入れ等に係る経費	0.3
シネマ	16,536,635	シネマ上映等に係る経費	7.9
共通事業費等	27,960,244	広報費、研修費、アーカイブ、旅費等の共通経費	13.3
合計	209,880,890		100

平成21年度　山口情報芸術センター事業概要

1　事業の方向性
～地方発信の時代へ－＜場＞と＜オリジナル＞を重視する～

山口情報芸術センター[YCAM]は、メディアテクノロジーと身体をめぐる新しい芸術表現活動を追求する複合的文化施設です。身体表現の場であるシアター［スタジオA］、アート作品を製作・展示できるアートホール［スタジオB］、コンピュータによる作品制作が可能なラボ［InterLab／専任エンジニアが所属］が融合された、世界的にも稀な機能を有した施設です。
YCAMでは、アートの現場に参加する文化体験を通じて、理解発見力、分析力、表現力を伸ばすための、真のコミュニケーションの＜場＞を創りだすことに挑戦しています。そのために、従来の「展示・保存型」の文化施設ではなく、「この場で考え、コミュニケーションし、共同で作り出そう」という「制作・発信・コラボレーション型」の創造的文化環境づくりを目指しています。その中で新しい発見や共同作業の喜びを体験してもらうことを期待しています。
YCAMの事業は、＜アート＞＜シアター＞＜教育普及＞を3つの柱としています。各分野とも施設の複合的特性を生かした、他の施設では生み出せないオリジナルのプロダクション（制作）を重要視し、地方から世界へ「オリジナルソフト」の発信を積極的に行っています。その成果は、すでに数々の国際フェスティバルでの受賞をはじめ、国内外からの数多くの展示・公演の招聘依頼などによって評価と信頼を得ています。情報共有だけでなく、文化施設どうしのオリジナルソフトの交換から生まれる国際的信頼の蓄積は、YCAM＝山口市に新たなブランド力を生んでいます。また、日本の新しい人材・発想を世界に紹介することにも寄与しています。
YCAMの事業を通じて、世界的な創造的才能（アーティストや情報技術関係者）が訪れる＜場＞を山口市に作りだすことで、有形・無形の文化的蓄積が可能になるばかりでなく、新しい形の地域還元も目に見える形になっています。例えば、アート作品で開発利用されたコンピュータプログラムやアプリケーションソフトが、ラボの活動を共有することで、別の分野の教育材ソフトの開発に応用され、オリジナルの情報教育教材を生むケースなどです。これらは、データソフトの提案だけでなく、ワークショップの形で施行するパッケージツールとしての現場普及の側面もフォローし、地元地域へのさまざまな形での情報技術・リテラシー教育を還元していく「THINK GLOBAL, ACT LOCAL」を現実的に成功させています。このような形で生み出されたYCAMオリジナルソフトは、地元だけでなく、国内の他の地域の教育関係施設からも高い関心を寄せられています。

2　事業の概況

山口情報芸術センターは、開館6年目を迎え、平成22年2月に入館者数500万人を越えました。
主な活動としては、平成16年の企画実施後、8ヵ国12ヵ所で巡回展示を行うなど国内外で好評を博した三上晴子＋市川創太「gravicells-重力と抵抗」の改訂新バージョンの制作・展示や三上晴子新作インスタレーション展「Desire of Codes｜欲望のコード」を実施するとともに、初の演劇滞在制作、マレビトの会「PARK CITY」公演を実施するなどYCAMオリジナル作品の制作・発信に力を注ぎました。

3　各事業総括表

事　業　区　分	事業数	入場者数（名）
［1］アート	8	17,376
［2］パフォーマンス	5	1,282
［3］教育普及	12	846
［4］ラボ	2	-
［5］シネマ	9	6,459
［6］貸館（件数）	25	17,140
合　　計	61	43,103

（備考）
①事業区分・事業数の詳細については、次頁からの個別事業（実施月順）の内容をご覧下さい。
②入場者数について
・ホワイエ、ギャラリー等の展示については実数把握ができないため、入場者数に加えていません。

ART
[1] アート

1	1
2	2
2-1	

1　sound tectonics#7「ATAK NIGHT 4」
2　スティーヴ・パクストン「Phantom Exhibition〜背骨のためのマテリアル」
2-1　ダンスデモンストレーション

1　sound tectonics#7「ATAK NIGHT 4」

開催日時：4月29日(水・祝)　19:30〜22:00
会　　場：スタジオA
入場者数：183名

内容：先鋭的な電子音響作品のリリースで知られる音楽レーベル「ATAK」を主宰する音楽家・渋谷慶一郎が主宰するライブツアー「ATAK NIGHT 4」。2008年冬にヨーロッパツアーを終え、山口、京都、東京公演によるジャパンツアーの皮切りとなる公演。アーティストは、70年代からニューヨークを拠点に活動する刀根康尚がYCAM初出演したほか、世界の最新鋭として注目を浴びる渋谷慶一郎、池田亮司、evalaの4組のアーティストが出演した。（当初出演を予定していたPan sonicのメンバーの1人ミカ・ヴァイニオ急病のため、Pan sonicの来日が不可能となり、その代役として、ヨーロッパから池田亮司の参加が急遽決定した。）YCAM公演では、ハイクオリティなサウンド再生と音響空間の実験環境に重点を置き、アーティストのリクエストにあわせて、スタジオAの広さを利用した8チャンネルサラウンド＋大画面スクリーンによるパフォーマンスを展開。各アーティストは最新のプログラム構成で、オリジナリティが際立つ凝縮したライブパフォーマンスとなった。

2　スティーヴ・パクストン「Phantom Exhibition〜背骨のためのマテリアル」

開催日時：5月24日(日)〜8月31日(月)
会　　場：スタジオB、ホワイエ、2Fギャラリー（入場無料）
入場者数：6,500名

内容：アメリカ・ポスト・モダンダンスを代表するダンサー／振付家、スティーヴ・パクストンの新作映像インスタレーションを中心に、作家によるデモンストレーション、専門家を招いたレクチャーなどによって、パクストンの身体における思想を総合的に紹介した展覧会。本展では、パクストンが1986年から取り組んでいるメソッド「Material for the Spine（背骨のためのマテリアル）」から展開された映像インスタレーションを、日本初公開した。展示空間を取り囲む5面の大型スクリーンには、メソッドに基づき身体を動かすパクストンやパフォーマーの身体映像、CGによるダンスシミュレーション、そして詩的なリズムを秘めた解説ナレーションが映し出されており、巨大な映像のなかで、観客は身体と重力の関係性を全身で感受することとなる。私たちに自明となっている身体表現のあり方を問いかける作品となった。（2009年4月にベルギーで初公開された新作。日本での展示はYCAMのみ）
第13回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品

【関連】ダンスデモンストレーション

開催日時：5月24日(日)　13:00〜14:30
会　　場：スタジオB（入場無料）
入場者数：100名
出　　演：スティーヴ・パクストン
通　　訳：川口隆夫

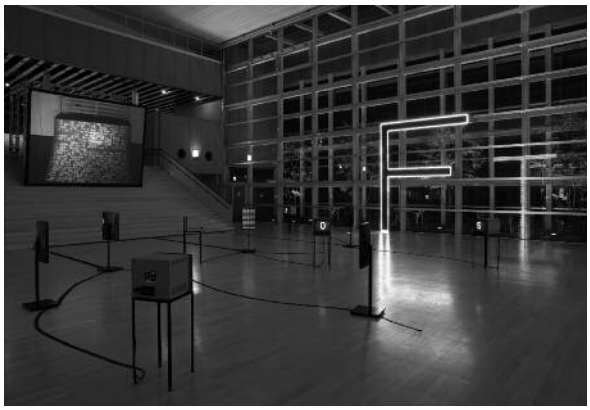
内容：展示作品「Phantom Exhibition」の空間の中で、スティーヴ・パクストン本人が本作について語るレクチャー。普段意識することのない「背骨」に注目し、身体の中心を探究するために合気道、ヨガ、ヴィパッサナー瞑想などのアジアの身体技法を取り入れた「背骨のためのマテリアル」について、また、4年間にわたり、パクストンとの共同製作を行ったベルギーのビデオアーティスト（フローレンス・コリン、バプティスト・アンドリアン）との制作プロセスやその内容について、デモンストレーションを交えながら話していただいた。

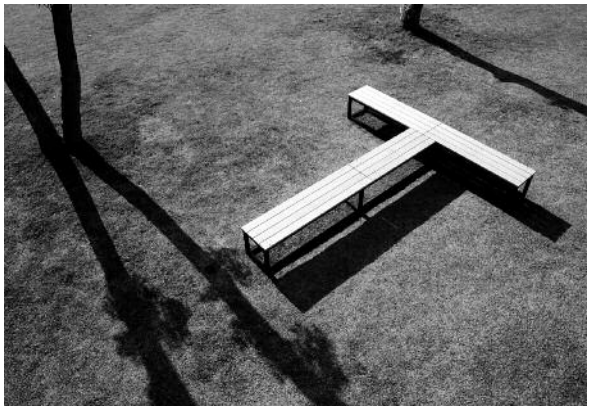
【関連】レクチャー＋ポストトーク

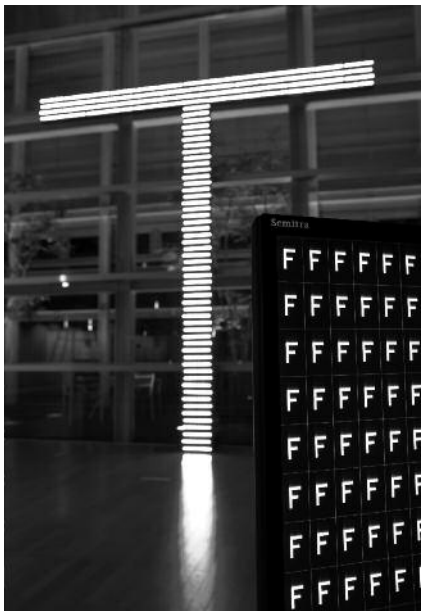
開催日時：5月24日(日)　15:00〜18:00
会　　場：ホワイエ（入場無料）
出　　演：スティーヴ・パクストン、中谷芙二子（アーティスト）
講　　師／モデレータ：外山紀久子（埼玉大学教授／美学）
入場者数：110名

内容：アート、ダンス、音楽などジャンルを超えた実験的な活動が展開された1950〜60年代アメリカの文化状況を踏まえ、スティーヴ・パクストンの活動とその意義を考える上で必須の参照点となるジャドソン・ダンス・シアターを中心に、外山紀久子氏が解説するレクチャー。なかでも、禅仏教やタオといった東洋思想の影響下で、身体が意識にはたらきかける重要なメディアとして再発見されていくプロセスに注目し、現在のアートシーン、コンテンポラリーダンスに通ずるその系譜をたどる貴重な機会となった。その後、パクストン本人や、今回パクストンを日本へ招聘するきっかけとなったアーティスト中谷芙二子氏を交え、アーティストトークを実施した。
＊本企画は、スティーヴ・パクストンの身体思想を紹介することを目的として、青森、東京、横浜、京都、山口で開催されたプロジェクト「タッチ、コンタクト、ボーンズ スティーヴ・パクストン＋リサ・ネルソンダンスプロジェクト」の一事業として開催された（展覧会開催は山口のみ）

ART
[1] アート







3 Semitra Exhibition「tFont/fTime」セミトラインスタレーション展
3-1 Movable Type
3-2 Type setting
3-3 LEDサイン. LCD/CRT
3-4 立体彫刻サイン
3-5 オープニングトーク

3　Semitra Exhibition「tFont/fTime」セミトラインスタレーション展

開催日時：9月19日(土)〜平成22年1月10日(日)
会　　場：スタジオB、ホワイエ、2Fギャラリー、中央公園ほか（入場無料）
入場者数：5,051名

内容：2003年の設立以来、ウェブデザインから、グラフィックス、インタラクティブデザインまで、メディアテクノロジーの最新形とデザインの領域をクロスオーバーさせるクリエイター集団「Semitransparent Design（セミトランスペアレントデザイン）」のアートユニット「Semitra（セミトラ）」による初の新作個展。
本展では、フォント（文字書体）デザインに着目し、時間の経過とともにフォントが変容していく新作を発表し、ウェブサイトと作品空間を連動したインスタレーションとして、新しい文字のデザインを探究する試みを提示した。会場では、観客が参加しながら体験できるインタラクティブな要素を取り入れ、ターンテーブルを操作し、スクラッチなどのDJテクニックを利用することによって、文字の形状に変化（歪み）を加え、音楽を再生するようにフォントのデザインを変化させることのできる作品（「Movable Type」）や、点滅する大量の光の粒が映し出されたスクリーンを、カメラのシャッタースピードを変えて撮影すると、文字として可視化される作品（「No Flash Photography Allowed（フラッシュを使用しない撮影は許可されています）」）などが展示された。また、本展特設ウェブサイトや専用メールアドレスにメッセージが投稿されると、ホワイエに設置された、本展のキーワード「T（time）」と「F（font）」の文字を型取った巨大なLED照明の色がリアルタイムに変化したり、野外の公園に、ベンチとしても機能する、巨大な立体彫刻のようなフォントが出現し、YCAMの日々の情景とともに変化するフォントスケープを楽しむ機会を提供した。

【関連】オープニングトーク

開催日時：9月19日(土)　15:00〜17:00
会　　場：ホワイエ（入場無料）
入場者数：115名
出　　演：Semitra （田中良治、菅井俊之、萩原俊矢、柏木恵美子）
ゲ ス ト：中村勇吾（tha）、阿部洋介（tha）
モデレータ：阿部一直（YCAM）、会田大也（YCAM）

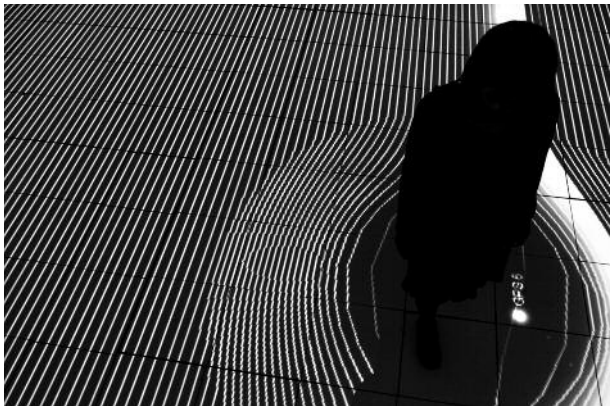
内容：Semitraメンバー本人による、本展の制作プロセスやコンセプトなどの作品の背景についてのトークを実施した。また、ゲストに中村勇吾氏、阿部洋介氏を迎え、最近の活動の紹介やこれからのウェブについての対談を行った。

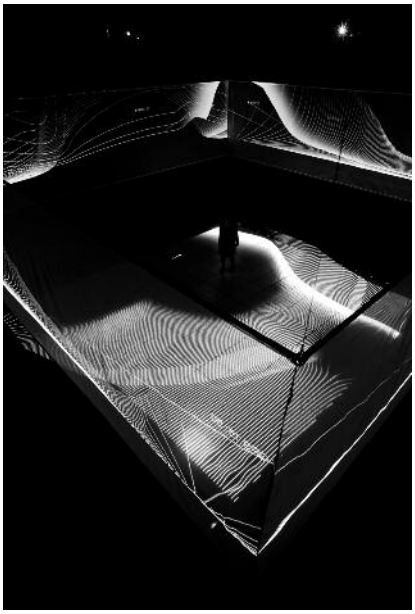
4　渋谷慶一郎＋evala
新作サウンドインスタレーション「for maria installation version」

開催日時：10月1日(木)〜平成22年6月6日(日)　10:00〜20:00
会　　場：中庭（入場無料）

内容：実験的かつハイクオリティなリリースが世界的に注目を集めるレーベルATAKを牽引する存在である渋谷慶一郎とevalaにより、本会場のために制作されたインスタレーション。本作は、渋谷によって作曲・演奏されたピアノソロによるCDアルバム「ATAK015 for maria」のサウンド・データの全て（全14トラック）を素材とし、渋谷とevalaによるコンピュータプログラムによって、＜加工／解体／再構成＞する音響作品。
会場となるホワイエを挟んだ2つの中庭A・Bは、天井までの高い壁（ホリゾント）による特殊な音響特性を持ち、地下に設置された5.1（または5.1＋2）チャンネルのスピーカーから音源が再生された。中庭は、それぞれ異なる建築構造を持つため、それぞれの空間に、異なったプログラミングが施されたサウンドがインストールされた。音像は立体的な移動を伴い、複数の楽曲間に新たな関係やレイヤーを構築し直すことで、原曲とは異なった全く新しい音楽・音響が生み出された。

ART
[1] アート





5	三上晴子＋市川創太「gravicells－重力と抵抗」改訂新バージョン
6	三上晴子新作インスタレーション展「Desire of Codes｜欲望のコード」
6-1	多視点を持った触覚的サーチアーム
6-2	蠢く壁面
6-3	巡視する複眼スクリーン
6-a	池上高志「MTM[Mind Time Machine]」

5　三上晴子＋市川創太「gravicells－重力と抵抗」改訂新バージョン

開催日時：平成22年1月24日(日)～6月6日(日)　※5月10日～21日は閉鎖　10:00～19:00
会　　場：スタジオB（入場無料）
入場者数：4,393人（3月末時点）

内容：「知覚のインターフェース」をテーマに、独自に開発した特殊な装置によって、人の重力とそれに対する抵抗を、映像と音によって表現する体験型のインスタレーション作品。
展示空間には、重力とそれに対する抵抗による仮想の力学場が設けられており、特殊な装置と水圧センサーによって開発された独自のセンシング機構によって、体験者の位置、重さ、傾き、速度や重力加速度の作用をリアルタイムに計算し、3次元の空間の歪みとして、映像と音に出力されるしくみとなっている。観客は、空間の中を自由に歩き回ることで、ダイナミックに変容する映像と音から、身体への重力の負荷と、それに対抗する反力を感じることができた。
また、今回の新バージョンでは、映像をプロジェクションする床面と3方向の壁面を、新たに四方を連結した4面スクリーンに拡張。床面を加えた5面のリアルタイム画像の動きが連動し、観客の動きや重力の作用による空間の変化を、より立体的な3次元空間として体験することが可能となった。

6　三上晴子新作インスタレーション展「Desire of Codes｜欲望のコード」

開催日時：3月20日(土)～6月6日(日)　10:00～19:00
会　　場：スタジオA（入場無料）
入場者数：817人（3月末時点）

内容：現在の情報技術と多様な次元のインタラクションが生み出す時間／空間の変容を体感できる新作2作品と関連展示1作品からなる総合的企画展。9.11以降、社会的な影響を与える公共圏における監視技術の問題をふまえ、「監視社会と身体」を共有テーマにアーティストの三上晴子、複雑系科学の研究者、池上高志両氏が各新作を発表した。三上は、YCAMとの共同制作により、監視技術とネットワーク社会の中に生み出される、新たな身体性と欲望の所在について探求し、最新技術やロボティクスを駆使した斬新なアプローチとなった。池上は、脳科学による「主観的時間の自己組織化」の視点から発想し、心の時間発展の理論に言及した観客参加型作品を公開した。さらに、2005年にYCAM初公開後、世界8カ国12ヵ所を巡回した三上晴子＋市川創太による「gravicells-重力と抵抗」改訂新版を同時公開した。

【関連展示】池上高志「MTM［Mind Time Machine］」

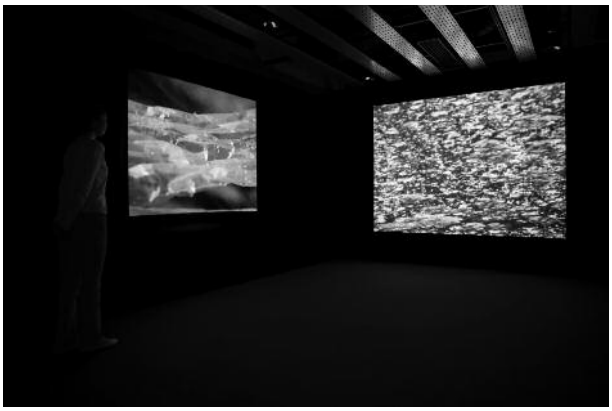
開催日時：3月20日(土)～6月6日(日)　10:00～20:00
会　　場：ホワイエ（入場無料）

内容：本展では、展覧会の構成においても実験的なアプローチを試み、三上晴子による新作と同じテーマを共有しながら、アプローチの全く異なる複雑系科学の研究者である池上高志による新作「MTM［Mind Time Machine］」を同時公開した。
池上は、「主観的時間の自己組織化」という視点から、アメリカの脳生理学者ベンジャミン・リベットの研究にインスパイアされ、脳の中の主観的時間の多層性をいかにあらわすかを探究し、作品として発表した。それは、人の意識を担っている脳が作り出す、意識とは別の時間的「今」を再構成するという科学的検証から出発している。コンピュータの作り出すプロセスによって、ニューラルネットワークの持つ自然環境そのものをつくりだすことを試みるため、認識の光景を組織化する「脳の主観的な時間のダイナミクスによる映像表現」を、意識／無意識／記憶の3つのプロセスのネットワークによるインタラクティブ作品として提示した。

【関連】オープニングトーク

開催日時：3月21日(日)　14：00～16:30
会　　場：ホワイエ（入場無料）
入場者数：107名
出 演 者：三上晴子、池上高志
モデレータ：阿部一直（YCAM）

内容：本展参加アーティストの三上晴子、池上高志両氏を中心に、各作品の制作メンバーも交え、作品を前にして解説およびディスカッションを開催した。作品の構想から制作のプロセスまで、作品の背景についても解説を行った。



7-1 7-2 7-2

7　館内展示作品（協力:YCAM InterLab）
7-1　scopic measure#09／newClear「skinslides」
7-2　scopic measure#10／高嶋晋一「Pascal pass scale」

7　館内展示作品（協力:YCAM InterLab）

7-1　scopic measure#09／newClear「skinslides」

開催日時：4月25日(土)〜8月31日(月)　10:00〜20:00
会場：ホワイエ（入場無料）

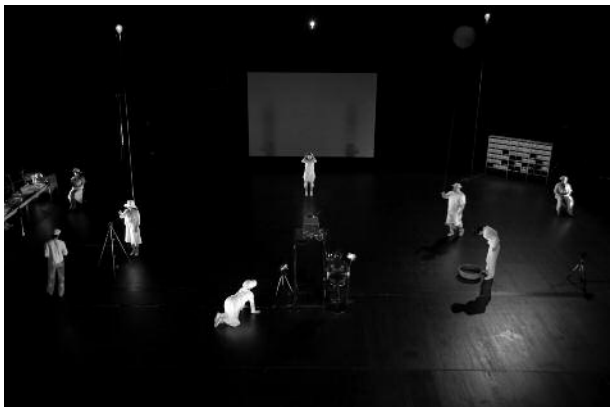
内容：本作「skinslides」は、ウィリアム・フォーサイス率いるフランクフルトバレエ団などで国際的に活躍するダンサーおよび振付家のアレッシオ・シルヴェストリンと、映像作家の大脇理智を中心に、実験的な音の追究をめぐり、国際的に活躍する音楽家大友良英がサウンドを手掛け、当館のラボ専属のテクニカルスタッフとの共同作業により、当館での約1週間の滞在制作を経て初公開された。
企画においては、当館にて同時期（2009年5〜8月）に開催したダンサー/振付家のスティーヴ・パクストンの新作展「Phantom Exhibition」とテーマを共有させ、「身体表現＋メディア」にフォーカスした新鋭アーティスト／ダンサーによるインスタレーションとして紹介。館内の他のプロジェクトと連動することにより、より多くの来場者が作品を体験し、現代における身体とメディアのあり方や振付の可能性において、歴史的な文脈を問い直しつつ、新しい身体表現のあり方を照射する作品となった。また、会期中作品をバージョンアップし、アーティストのコンセプトや観客の反応を再度フィードバックすることによって作品を練り上げ、より密度の高い完成度を追究した。

7-2　scopic measure#10／高嶋晋一「Pascal pass scale」

開催日時：4月25日(土)〜8月31日(月)　10:00〜20:00
会　　場：2階ギャラリー（入場無料）

内容：身体と映像をめぐる思考をテーマに、ビデオによるインスタレーション制作やパフォーマンスを通して活動を行う若手アーティスト、高嶋晋一。本展では、旧作である「One foot on the moon part 2」(2004)、「One foot on the moon part 4」(2005)、「Fear of flying」（2008）を組み合わせた映像インスタレーションと、新作を2つの展示ブースで対称となるように構成した。
4つの映像からなる本展のための新作「Pascal pass scale」は、これまで高嶋が展開してきた映像作品における撮影の対象を、空気や風の動きといった直接的には見えないもの、あるいは光学的な現象へと拡張している。それにより、私たちの感覚と思考を、カメラの背後にある身体性へと導く作品となった。
企画意図としては、上記作品「skinslides」と同様、当館にて同時期に開催したスティーヴ・パクストン新作展「Phantom Exhibition」とテーマを共有させ、「身体表現＋メディア」にフォーカスしたインスタレーションとして紹介した。

PERFORMING ARTS
[2] パフォーミングアーツ



1
1 1
2
2
2

1　YCAMパフォーマンスラウンジ
　　煙巻ヨーコ　ダンスセッション
　　「ALL LOVES YOU!」
2　マレビトの会「PARK CITY」

1　YCAMパフォーマンスラウンジ #4
煙巻ヨーコ　ダンスセッション　「ALL LOVES YOU!」

開催日時：6月27日(土)　18:00～
会　　場：スタジオA
入場者数：265名（入場料2,300円他）

内容：通常の客席を取り払い、出演者を間近に感じることが出来る「クラブ」形式での公演。観客が初めてでも一緒に踊りやすいような会場・美術を構成。出演、演出に実力派ダンサー東野祥子を迎え、あえて舞台芸術の文脈ではなく、彼女がクラブで活動する際の名前「煙巻ヨーコ」として、複数のミュージシャンやDJと即興のセッションを行った。地元で活躍するDJに出演を依頼するなど地域との連携もあり、山口市内また福岡広島の近隣圏から多くの来場者があった。

2　マレビトの会「PARK CITY」

開催日時：8月28日(金)19:00～、29日(土)　14:00～／19:00～、30日(日)　14:00～／19:00～
会　　場：スタジオA
入場者数：243名（入場料3,000円他）

内容：滞在制作を通したYCAM初のオリジナル演劇作品
言葉と写真が描く、PARK CITY＝「広島」
演劇でしか実現しない表現を追求し、実験的な作品を発表し続ける劇団「マレビトの会」。代表の松田正隆は、数々の演劇賞を受賞し、90年代から現在まで日本の演劇界をリードする劇作家／演出家の一人である。また、都市の風景を切り取り、その独自の視点が高い評価をうける若手写真家の笹岡啓子が創作に参加した。戦後、公園（PARK）を中心に復興した都市「広島」をテーマに、二人のテキストと写真が、都市にある潜在的な記憶を描き出す。
あえて舞台から遠く離れた3階席のみに客席を用意し、観客席それぞれに設置されたモニターにはさまざまな映像と音声があらわれ、観客は新たな演劇を体験した。松田正隆の書き下ろし脚本と演出、笹岡の写真、そしてYCAMの特徴であるメディア技術を盛り込んだ先鋭的な作品。

【関連】ポストトーク

開催日時：8月29日(土)、30日(日)　14:00開演の公演終了後
会　　場：ホワイエ
入場者数：133名（入場無料）

内容：
29日　出演：松田正隆（作・演出）、笹岡啓子（写真）ゲスト：内野 儀（演劇批評家　東京大学大学院総合文化研究科教授）
司会：竹下暁子（YCAM）
昨今、声と記憶を扱ってきた「マレビトの会」の過去作品と、今作の比較を中心に、演劇の側から読み解くトーク。

30日　出演：松田正隆（作・演出）、笹岡啓子（写真）ゲスト：倉石信乃（詩人・批評家）司会：竹下暁子（YCAM）
1998年～2007年まで横浜美術館学芸員として写真展の企画に携わってきた倉石氏をゲストに迎え、さまざまな写真家の被写体となってきた「ヒロシマ」をテーマに、本作を読み解くトーク。

【関連】笹岡啓子写真展

開催日時：8月1日(土)～31日(月)　10:00～
会　　場：2階ギャラリー

内容：「PARK CITY」のコンセプトに大きな影響を与えた同名の写真シリーズから、舞台にも登場した写真家、笹岡啓子自身によるセレクション作品を展示。舞台上での演出とは異なる雰囲気で、オリジナルプリントを間近に見ることが出来る機会を提供した。2010年、写真集「PARK CITY」は「日本写真協会新人賞」を受賞している。

PERFORMING ARTS
[2] パフォーミングアーツ

3 4 4 4 5 5 5

3　演劇公演「旅とあいつとお姫さま」
4　グルーポ・チ・フーア「H3」
5　演劇公演「Life On The Planet」

3　演劇公演「旅とあいつとお姫さま」

共催：NPO法人こどもステーション山口

開催日時：9月26日(土)　19：00～
会　　場：スタジオA
入場者数：321名（入場料2,700円他）

内容：次代を担う子どもたちと、その親世代に対して、優れた舞台芸術作品を提供する機会を設ける企画。世界各国で美しく幻想的な作品を創作する演出家・テレーサ・ルドヴィコがアンデルセンの童話「旅の道づれ」とノルウェーの昔話「旅の仲間」を題材に創り上げた音楽劇。5人の出演者が、様々な役柄に入れ替わり、テンポの良い展開と、シンプルながらに斬新な舞台美術や衣裳、美しい音楽が印象的な作品であった。また、山口市内で家族向けに、文化や芸術の環境を提供することを目的として設立された「NPO法人こどもステーション山口」と共催し、地域のネットワークに対して広く周知活動を行うことができた。

4　グルーポ・ヂ・フーア「H3」

開催日時：11月14日(土)　19:00～
会　　場：スタジオA
入場者数：187名（入場料：2,300円他）

内容：ブラジルの振付家、ブルーノ・ベルトラオは、幼いときからヒップホップを学び、20代にはいってからコンテンポラリーダンス作品を発表するようになった。彼のカンパニー「グルーポ・ヂ・フーア」によるダンス作品「H3（エイチ・スリー）」の上演を開催。バレエやモダンダンスの出身者ではなく、8人のストリートダンサーが踊る、ヒップホップのテクニックやルールを効果的に使った作品は従来のダンス作品にない迫力を持っており、YCAM公演後も、世界各地の劇場で上演が続いている。カンパニーの協力を得て、地元のダンス教室でメンバーがダンスを披露するなど、草の根レベルの交流が実現した。

5　演劇公演「Life On The Planet」

開催日時：12月20日(日)　14:00～
会　　場：スタジオA（入場料2,300円他）
入場者数：133名

内容：身近にある環境問題や社会問題を取り上げ、ドキュメンタリー性の高い演劇を創作する阿部初美演出による演劇作品。同年、YCAMで滞在制作を行った劇作家／演出家の松田正隆がテキストを書いた。実在する人工閉鎖空間から着想を受けて創られた本作は、フィクションでありながらも、来るべき未来の暗示を感じさせる作品であった。また、公演終了後には演出家や俳優、音楽家らが劇場ロビーに出てきて、直接に観客とふれあい、公演の感想や質問を交換する場を設けた。こういった機会を設けることにより、観客にとってより作品内容の理解を深め、演劇に対する興味を持ってもらう良い機会となった。

[3] 教育普及

1　自主事業関連教育普及事業

●「Phantom Exhibition〜背骨のためのマテリアル」ギャラリーツアー

開催日時：6月7日(日)、14日(日)、27日(土)、28日(日)、7月5日(日)、11日(土)、18日(土)、25日(土)、26日(日)、8月1日(土)、2日(日)、29日(土)、30日(日)
会　　場：スタジオB、ホワイエ、2Fギャラリー
参加者数：121名（参加無料）

内容：「Phantom Exhibition〜背骨のためのマテリアル」に関連したギャラリーツアー。ダンサーのスティーブ・パクストンの提唱するコンセプトを理解するために、話を聞くだけではなく、実際にパクストンの考案した体操を取り入れ、参加者が体を動かす時間を設け、体感的に理解を深めてもらった。

●「ALL LOVES YOU!」関連ダンスワークショップ『ダンスってこんなに自由だったの？!』

開催日時：6月20日(土)、21日(日)　13:00〜
会　　場：スタジオA
参加者数：18名（参加料3,000円）

内容：ダンス経験者に限らず一般を対象とし、東野祥子を講師に迎えたダンスワークショップ。参加者は、技術上達だけにとどまらず、コンテンポラリーダンスの振付の意図や狙いを深く理解するため、身体の運用について学んだ。

●「PARK CITY」関連レクチャー『劇作・演出家のはなしを聞こう！ー声はどこからくるの？』

開催日時：6月6日(土)　14:00〜
会　　場：スタジオA
入場者数：70名（入場無料）

内容：「PARK CITY」に関連したアーティストレクチャー。松田演劇における「声」の意味について、滞在制作中の舞台セットの中で、演出家松田正隆および、写真家笹岡啓子を交えながらひも解いていった。

●セミトラインスタレーション展「tFont/fTime」ギャラリーツアー

開催日時：10月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日)、17日(土)、18日(日)、24日(土)、25日(日)、11月22日(日)、12月6日(日)、12日(土)、13日(日)、26日(土)、27日(日)、1月9日(土)、10日(日)　14：00〜
会　　場：スタジオB、ホワイエ
参加者数：121名（参加無料）

内容：セミトラインスタレーション展「tFont/fTime」についてのギャラリーツアー。フォントの歴史や、デザインと時間といったテーマを設定し、参加者の能動的な理解を促すように進行した。

●セミトラインスタレーション展「tFont/fTime」関連ワークショップ「typo DJワークショップ」

開催日時：11月28日(土)　13:00〜、29日(日)　10:00〜
会　　場：スタジオA
参加者数：10名（デモライブ鑑賞者79名）

内容：セミトラインスタレーション展「tFont/fTime」に関連したHIFANA＆IZPONを講師に迎えて行われたDJワークショップ。DVJという機材を使用することによって自分達で撮影した映像を音楽のようにスクラッチ・プレイできる。新しいツールによって生み出される音と映像の複合表現を体験した。

●「Life On The Planet」関連レクチャー『私たちが生きられる一番小さな生態系』

開催日時：12月5日(土)　14:00〜
会　　場：ホワイエ（参加無料）
参加者数：57名

内容：ドラマトゥルクの長島確さんから、「ドラマトゥルクとはなにか？」という話題、音楽家の大谷能生さんから「演劇に対する音楽の付け方」に関する話題がレクチャーされた。いずれも、伝統的な分業体制による演劇制作に対する批評的な視線から、現状での手探りの制作体制について説明するものであった。

●「gravicells－重力と抵抗」ギャラリーツアー

開催日時：1月24日(日)、30日(土)、31日(日)、2月20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日)、3月13日(土)、14日(日)　14：00〜
会　　場：スタジオB
参加者数：90名

内容：スタッフとともに作品を鑑賞。体感型のインスタレーションを通して、重力とは何かを問いながら、より深く読み解いていった。

●三上晴子「Desire of Codes｜欲望のコード」ギャラリーツアー

開催日時：3月22日(月祝)、27日(土)、28日(日)　14：00〜
会　　場：スタジオA、ホワイエ
参加者数：29名（3月末まで）

内容：作品を鑑賞し、参加者それぞれが気付きを発表、説明者がヒントを与えることにより違った視点からの読み解きも提案。

[3] 教育普及

2　オリジナルワークショップ

●ケータイ・スパイ・大作戦

開催日時：8月13日(木)、14日(金)、15日(土)、17日(月)、19日(水)、20日(木)、21日(金)、22日(土)、24日(月)、26日(水)、27日(木)　各日13:00～
会　　場：ホワイエ他（参加費500円）
参加者数：136名

内容：YCAM教育普及で開発のオリジナルワークショップのひとつで、携帯電話を使った鬼ごっこで遊びながら、ネットワーク社会のルール作りとマナーの関係を考える、という社会的な学習効果も考慮したプログラムを実施。YCAMでは2度目の実施となり今回は小中学生の夏休み期間中をとおして全11回行われた。

●検索ワークショップ「Search'n Search」

開催日時：2月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)　14：00～
会　　場：創作学習室（参加費500円）
参加者数：44名

内容：「検索と社会」をテーマにしたYCAMオリジナルワークショップ。高度な情報社会の現在、「検索」という日常化した行為の裏側で何が行われているのか。またそれが自分達の生きている社会とどのように関係しているのかを体験を通じて知ることができる希少なワークショップとなった。

3　YCAMバックステージツアー2009

開催日時：8月16日(日)、23日(日)　14:00～
会　　場：スタジオA（参加無料）
参加者数：16日25名、23日31名

内容：マレビトの会「PARK CITY」公演の制作風景を一般公開する舞台裏ツアー。
実験中の機材や稽古中の役者を現場で見ることができ、スタッフによる説明や演出家への質問を通して本公演の理解を促進した。

4　演劇ワークショップ「演劇鑑賞、もうひとつのトビラ」

開催日時：3月6日(土)　13:00～、7日(日)　10:00～
会　　場：楽屋7・8（参加費2,000円他）
参加者数：15名

内容：年に1度程度開催している演劇系のワークショップ。ドラマトゥルクの長島確氏を迎えて、現代演劇がトライしようとしているリアルな表現についての理解を深め、参加者が今後演劇を読み解く時のヒントを与えようという狙いの内容。座学と、戯曲の音読みを通して、テキストがリアルに立ち上がる瞬間に立ちあうことになった。

［4］ラボ

1　研究開発事業

YCAMでの作品制作に必要な技術力の向上、維持を目的に基礎研究と開発を行う企画。
YCAM InterLabのメンバーそれぞれが研究テーマを設定し、研究・内部発表を行った。

2　研修生事業

世界中から1人ないしは2人を半年から1年間YCAMに研修生として呼び、共に研究、制作を行う企画。YCAMスタッフの価値観、思考の幅を広げること及び新たな人材発掘を目指すもので、今年はシンガポールから1名受け入れを行い、共に研鑽した。

[5] シネマ

1　コミュニティシネマ山口

会　　場：スタジオC
入場者数：2,505名

上映作品：
4月　「真木栗ノ穴」「落下の王国」「ミツバチのささやき」「エル・スール」
6月　「ワンダーラスト」「ローラ」「シェルブールの雨傘」「ロシュフォールの恋人たち」
7月　「子供の情景」「パンダコパンダ／パンダコパンダ雨降りサーカスの巻」「アズールとアスマール」「動物農場」「鈍獣」
8月　「いけちゃんとぼく」「我が至上の愛〜アストレとセラドン」
9月　「マン・オン・ワイヤー」「夏時間の庭」「クリーン」「レディ・アサシン」「冷たい水」「NOISE」
10月　「ウルトラミラクルラブストーリー」
11月　「ロストロポーヴィチ人生の祭典」「チェチェンへアレクサンドラの旅」
1月　「セントアンナの奇跡」「それでも生きる子供たちへ」
3月　「アンナと過ごした4日間」

内容：クラシック映画、ミニシアター系の作品、ドキュメンタリーなど新作から旧作まで多彩な作品を上映。ジャック・ドゥミ監督のリバイバル上映やオリヴィエ・アサイヤス監督の新作公開に併せた特集も開催、好評を博した。

2　Select CINE TECTONICS

映画を芸術作品として捉え、世界の様々な地域の古典から新作まで、芸術史及びメディア史的視点から見て、意義深い作品を紹介するシリーズ。映画作家やテーマ別にセレクトして上映する。

●Select CINE TECTONICS＝6「ジャン＝リュック・ゴダール監督特集」

開催日時：6月19日(金)～21日(日)
入場者数：170名

上映作品：「彼女について私が知っている二、三の事柄」「男性・女性」「ゴダールのマリア」

内容：フランスのヌーヴェル・ヴァーグを代表する映画作家ジャン＝リュック・ゴダールの作品を上映。

●Select CINE TECTONICS＝7「王兵監督特集」

開催日時：7月1日(水)～5日(日)、7月10日(金)～12日(日)
入場者数：74名

上映作品：「鉄西区　第1部：工場」「鉄西区　第2部：街」「鉄西区　第3部：鉄路」「鳳鳴ー中国の記憶」

内容：世界が注目する中国のドキュメンタリー作家・王兵の長編2作を上映。

●Select CINE TECTONICS＝8「ストローブ＝ユイレ、あるいはルノワール　映画におけるリアリズムへの問い」

共催：アテネ・フランセ文化センター

開催日時：10月16日(金)～18日(日)
入場者数：128名

上映作品：「ルーブル美術館訪問」「ヨーロッパ2005年、10月27日」「アルテミスの膝」「ジャン・ブリカールの道程」「アメリカ（階級関係）」「素晴らしき放浪者」

内容：フランスの映画作家ジャン・ルノワールの傑作「素晴らしき放浪者」と現代のフランスで最も重要な映画作家ストローブ＝ユイレの作品を上映。

●Select CINE TECTONICS＝9「ジャック・タチ監督特集」

開催日時：2月25日(木)～28日(日)
入場者数：119名

上映作品：「左側に気をつけろ」「郵便配達の学校」「のんき大将」「ぼくの伯父さんの休暇」「ぼくの伯父さんの授業」「ぼくの伯父さん」「プレイタイム＜新世紀修復版＞」

内容：フランスの映画作家／俳優のジャック・タチ。彼が映画史にのこした傑作の数々を上映。

3　特集上映

●川島雄三監督特集

共催：コミュニティシネマ支援センター、(財)国際文化交流推進協会（エース・ジャパン）

開催日時：5月1日(土)～31日(日)
入場者数：673名

上映作品：「還ってきた男」「幕末太陽傳」「暖簾」「貸間あり」「花影」「女は二度生まれる」「東京マダムと大阪夫人」「洲崎パラダイス　赤信号」「青べか物語」「わが町」「グラマ島の誘惑」「しとやかな獣」「愛のお荷物」「雁の寺」「喜劇とんかつ一代」

内容：喜劇から文芸作まで幅広い作風で知られる川島雄三。45年という短い生涯の中で遺した51作品の中から15作品を厳選上映。

●文化庁優秀映画鑑賞推進事業

共催：文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンター

開催日時：9月19日(土)～23日(水)
入場者数：604名

上映作品：「安城家の舞踏会」「戦争と平和」「帰郷」「蜂の巣の子供たち」

内容：戦争や終戦によって運命を翻弄された人々を描いた戦後の傑作4本を上映。

●マキノ雅弘監督特集

共催：文化庁（地域文化芸術振興プラン）、やまぐち地域文化芸術振興プラン実行委員会、
　　コミュニティシネマセンター、東京国立近代美術館フィルムセンター

開催日時：11月20日（金）～12月27日（日）
入場者数：683名
上映作品：「江戸の惡太郎」「彌太郎笠　前篇」「彌太郎笠　後篇」「すっ飛び駕」「日本侠客伝　血斗神田祭り」「阿波の踊子」（「劔雲鳴門しぶき」改題短縮版）「仇討崇禅寺馬場」「鴛鴦歌合戦」「日本侠客伝　白刃の盃」「血煙高田馬場」（「決闘高田の馬場」改題短縮版）「昨日消えた男」「抱擁」「侠骨一代」「ハナ子さん」（ハナコサン）「おしどり駕籠」「昭和残侠伝　血染の唐獅子」「續清水港」（「清水港代参夢道中」改題短縮版）「殺陣師段平」「いれずみ半太郎」「昭和残侠伝　死んで貰います」「江戸っ子繁昌記」「肉体の門」「次郎長三国志　第三部　次郎長と石松」「続次郎長三国志」

内容：生涯で260本余りもの作品を手がけたマキノ雅弘の華麗なフィルモグラフィーの中から24作品を上映。

○関連トークイベント

1）山根貞男（映画評論家）
　12月5日(土)　16:30～
　会場：スタジオC

　内容：本特集で上映されるプログラムを中心にマキノ映画を観ることと、その魅力について講演。

2）岡島尚志（東京国立近代美術館フィルムセンター主幹）
　聞き手：堀家敬嗣（山口大学教育学部准教授）、阿部一直（YCAM）
　12月19日（土）16:10～
　会場：スタジオC

　内容：映画フィルムを貴重な芸術的、メディア的文化遺産として保存・収集していくアーカイブ活動についてインタビュー。

●山口未公開日本映画特集
「鈴木×鈴木」鈴木清順監督特集＋鈴木則文監督特集

共催：文化庁（地域文化芸術振興プラン）、やまぐち地域文化芸術振興プラン実行委員会

©東映

開催日時：平成22年1月14日(木)〜2月21日(日)
入場者数：845名

上映作品：「悪魔の街」「青い乳房」「海峡、血に染めて」「野獣の青春」「東京流れ者」「8時間の恐怖」「素ッ裸の年令」「くたばれ愚連隊」「探偵事務所23　くたばれ悪党ども」「春婦傳」「暗黒街の美女」「密航0ライン」「刺青一代」「関東無宿」「殺しの烙印」「大阪ど根性物語　どえらい奴」「聖獣学園」「多羅尾伴内」「忍者武芸帖・百地三太夫」「兄弟仁義・逆縁の盃」「緋牡丹博徒　一宿一飯」「ドカベン」「トラック野郎・爆走一番星」「吼えろ鉄拳」「少林寺拳法」「まむしの兄弟・恐喝三億円」「華麗なる追跡」「トラック野郎・望郷一番星」「エロ将軍と二十一人の愛妾」「文学賞殺人事件　大いなる助走」

内容：50-60年代日活アクション映画を代表する鈴木清順監督と、60-70年代東映アクション映画を代表する鈴木則文監督作品を併映。

○関連トークイベント

鈴木則文（映画監督）、青山真治（映画監督・作家）、柳下毅一郎（映画評論家・特殊翻訳家・殺人研究家）
2月13日(土)　16:10〜
会場：スタジオC

内容：鈴木則文監督や監督作品について、監督自身と監督を愛してやまない青山監督、柳下氏の3名で対談を行った。

4　YCAM関連上映

●「マレビトの会／PARK CITY」関連上映

開催日時：8月7日(金)〜9日(日)
入場者数：79名

上映作品：「美しい夏キリシマ」「ヒロシマモナムール」「H story」「CAMOCE几ー長崎そしてチェルノブイリー」

内容：マレビトの会主宰・松田正隆が関わった作品と新作演劇公演「PARK CITY」に関連した作品を上映。

●グループ・ヂ・フーア「H3」関連上映

開催日時：11月6日(金)〜8日(日)
入場者数：40名

上映作品：「ワイルドスタイル」「デス・オブ・ア・ダイナスティ」

内容：グループ・ヂ・フーア「H3」に関連した映画を無料上映。

[5] シネマ

5　真夏の夜の星空上映会

開催日時：8月14日(金)・15日(土)　19:30～
会　　場：中央公園、ホワイエ
入場者数：415名

上映作品：「ジャズ大名」「亀は意外と速く泳ぐ」

内容：中央公園で日没と共に野外上映会を開催した。
　＊15日は小雨の為、YCAMホワイエにて開催。

6　シネマテークプロジェクト第二弾　「生誕百年記念　山中貞雄監督特集」

開催日時：3月12日(金)～14日(日)、26日(金)～28日(日)
入場者数：124名

上映作品：「丹下左膳餘話　百萬兩の壺」「河内山宗俊」「水戸黄門　血刃の巻」「大菩薩峠　第一篇　甲源一刀流の巻」「人情紙風船」「戦國群盗傳［総集編］」「その前夜」「貞雄にいさんのこと－素顔の山中貞雄」「山中貞雄のパラパラ漫画アニメ」

内容：戦前の日本映画界で天才と言われながらも28歳という若さで夭折した山中貞雄が監督した3作品と共同監督作品や脚本作品などの関連作品を併せて上映。

[6] 主な貸館事業

●第14回全国メセナネットワーク山口大会文化公演

（主催）山口メセナ倶楽部
開催日時：10月2日(金)

●山口市民文化祭

（主催）山口市文化協会、山口市
開催日時：10月31日(土)～11月3日(火)

●ジャパン・ファッションデザインコンテスト、ジャパン・ジーニングコレクション

（主催）ジャパン・ファッションデザインコンテストin山口
開催日時：11月7日(土)、8日(日)

●シネ☆パラ2010

（主催）山口大学映画倶楽部
開催日時：3月18日(木)

[7] 施設利用状況

1　入館者数
月別内訳（名）

4月	57,815	10月	69,974
5月	61,059	11月	58,422
6月	57,437	12月	49,578
7月	64,536	1月	53,560
8月	74,082	2月	58,044
9月	58,031	3月	50,385
合計　712,923			

2　見学・視察者数
月別内訳（名）

4月	115	10月	320
5月	62	11月	70
6月	8	12月	24
7月	209	1月	29
8月	65	2月	163
9月	0	3月	3
合計　1,068			

3　施設使用状況

施設	開館日数	使用日数	使用率(%)
スタジオA	308	140	45.5
スタジオB	308	283	91.9
スタジオC	308	203	67.0
創作・学習室	308	93	30.2
多目的室	308	93	30.2

[8] その他特記事項

1　アーカイブ事業
内容：事業活動成果の冊子制作やプロジェクト毎の映像編集、CD制作などを実施。また、Webや館内閲覧コーナーを充実させ、過去のイベント内容の情報提供に努めた。

2　実習生受け入れ状況
●インターンシップ（3名）
期間：8月13日～27日、9月10日～14日、9月10日～19日
内容：教育普及ワークショップ運営、アート展示設営

●博物館実習（3名）
期間：8月12日～30日、8月22日～31日、9月10日～19日
内容：教育普及ワークショップ運営、舞台公演設営、アート展示設営

主な関連新聞記事

〈参考資料〉
山口情報芸術センターの活動成果

YCAM InterLabオリジナルプロダクション／対外効果（平成22年度も含む）

［アート部門］

三上晴子「Desire of Codes｜欲望のコード」

3パートより構成される本作のうち、「蠢く壁面」「巡視する複眼スクリーン」がドイツ・ドルトムントで、「多視点を持った触覚的サーチアーム」がオーストリア・ウィーンで再展示された。
2010年3月20日-2010年6月6日　YCAM

■「蠢く壁面」「巡視する複眼スクリーン」
2010年7月31日-9月5日　「TRUST」（DORTMUNDER U／ドルトムント／ドイツ）

■「多視点を持った触覚的サーチアーム」
2010年8月5日-9月20日　「SPACE INVENTIONS」（Kunstlerhaus／ウィーン／オーストリア）

semitra 「tFont/fTime」

2009年9月19日-2010年1月13日　YCAM
2010年10月22日-11月18日　「セミトラ展　ウェブから生まれるデザイン」（クリエイションギャラリーG8／銀座／東京）

SHINCHIKA「H2Orz」

YCAM開館5周年記念事業として実施された「ミニマム　インターフェイス」展出展の8作品のうち、SHINCHIKAの作品「H2Orz」をアップデートした「H2Orzx」が韓国・ソウルほか下記2ヶ所へ巡回、再展示された。
2008年11月1日-2009年2月8日　YCAM
2009年6月12日-7月12日「What Is Real? The 9th Photo Festival 」（Gana Art Center／ソウル／韓国）
2009年11月1日-11月29日「わくわくJOBAN-KASHIMAプロジェクト」（旧シネマサンシャイン／柏／千葉）
2009年12月15日-12月26日「First Passage 同時開催：野村 仁 退任記念展」（アートコートギャラリー／大阪市／大阪）

大友良英「without records」［改訂新作］

2008年に実施した「大友良英/ ENSEMBLES」展5作品のうち、「without records」［改訂新作］が水戸芸術館への巡回を予定している。
2008年7月5日-10月13日　YCAM
2010年11月30日-2011年1月16日　大友良英「アンサンブルズ2010-共振」（水戸芸術館現代現術センター／水戸／茨城）

doubleNegatives Architecture「Corpora in Si(gh)te」

2007年10月13日-2008年1月13日　YCAM
2010年3月17日-5月11日「Dynamic （in）position. Ars Electronica in Mexico」（メキシコシティ／メキシコ）

坂本龍一＋高谷史郎「LIFE-fluid, invisible, inaudible…」

2007年3月10日-5月28日　YCAM
2010年3月3日-5月2日「Digital Life」(LA PELANDA-CENTRO DI PRODVZIONE CULTURALE／ローマ／イタリア）

［パフォーミングアーツ部門］

マレビトの会「PARK CITY」

現代日本を代表する劇作家・演出家の松田正隆、気鋭の若手写真家笹岡啓子によるコラボレーション作品。
YCAM InterLabがアイディアや技術提供を行い、今までにない演劇体験を創作した。
同名の写真集で笹岡は2010年「日本写真協会賞」新人賞を受賞している。
2009年8月28日-30日　YCAM
2009年10月24日-25日（滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 大ホール舞台上舞台／滋賀）

白井　剛×川口　隆夫×藤本　隆行「true／本当のこと」

ディレクション・照明：藤本隆行（Refined Colors／dumb type）
振付・出演：白井剛（AbsT/発条ト）
振付・テクスト・出演：川口隆夫（dumb type）他
アーティスト、技術者10人がYCAMに結集し、YCAM InterLabと共同開発した作品。

2007年9月1日　YCAM
2009年8月6日-9日 （世田谷パブリックシアター シアタートラム／東京）
2009年9月25日-26日 （Stadsschouwburg Amsterdam(SSBA)／アムステルダム／オランダ）
2009年9月29日 （Parktheater Eindhoven／アイントフォーヘン／オランダ）
2009年10月3日-4日 （Tanzhaus NRW Dusseldorf／デュッセルドルフ／ドイツ）
2009年10月9日-10日 （Mousonturm Frankfurt／フランクフルト／ドイツ）
2009年10月15日-17日 （Maison de la culture du JAPON a Paris／パリ／フランス）
2009年11月11日-12日 （Festival Panorama de Danca／リオ・デ・ジャネイロ／ブラジル）
2009年11月18日-19日 （Teatro Paulo Autran at SESC Pinheiros／サンパウロ／ブラジル）

［教育普及部門］

ケータイ・スパイ・大作戦

2005年度に開発したオリジナルワークショップを、招聘により実施した。
2009年12月12日-13日　（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／香川県）

［その他］

アートフェア「ESTAMPA」におけるYCAMブース出展

アートコレクター、美術館学芸員、美術関係者、一般客（スペイン国内、EU、アメリカ）を対象とした現代アートフェアー「ESTAMPA」の招聘によりブースを出展。フェア来場者数400,000人。
2010年10月28日-11日2日（マドリード／スペイン）

■受賞歴

Steve Paxton「Phantom Exhibition～背骨のためのマテリアル」

第13回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品受賞

semitra「tFont/fTime」

東京TDC賞 2010（The Tokyo Type Directors Club Annual Awards 2010）RGB賞受賞

平成21年度
山口情報芸術センター事業報告書

山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media
〒753-0075　山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222　FAX : 083-901-2216
e-mail : information@ycam.jp
http://www.ycam.jp

［発行］平成22年10月
財団法人 山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion
〒753-0075　山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222　FAX : 083-901-2216
e-mail : zaidan-info@ycfcp.or.jp
http://www.ycfcp.or.jp/